



2015年(平成27年) 7月17日(金) (旧暦 6月2日) 先勝

デリー東北新聞社 〒031-8601 八戸市城下1丁目3-12 ☎0178-44-5111 ©デリー東北新聞社2015

もう一つの学校

八戸あおば高等学院から

2年生の男子生徒

八戸市のあおば高等学院に通う2年生男子のA君(17)。小中学生のころ、人間不信になるほど苦しい日々を重ねた。今は新しい環境で伸び伸びとした生活を送る。いじめ、家族との不仲、不登校…。「(それらは)もう過去のことだから」。A君は前を向く。(玉川那津美)

いじめ、不登校…乗り越えて

「自分の居場所見つけた」

「家にも学校にも自分の居場所がなかった」
小学校低学年の時、同級生によくからかわれた。悪質ないじめになったのは小4から。リーダー格の男子を含む20人ぐ

「家にも学校にも自分の居場所がなかった」
小学校低学年の時、同級生によくからかわれた。悪質ないじめになったのは小4から。リーダー格の男子を含む20人ぐ

中学校を卒業し、あおば高等学院へ進学した。最初は学校に行くのが面倒だった。しかし、色んな境遇を持ち、自分や他人を差別しない友達にやっと出会えたことで、遅刻してでも毎日行こうと思えた。



焼き肉。学校行事の一シーン

らいに、擦れ違っただけで嫌な事を言われたり、日々が続いた。暴力を振るわれたりする

子どもも育む

家庭もつらい環境だった。幼いころ、病気が原因で父が面目を失明。それ以降、母は父の世話に精いっぱい、いじめのことを相談しても「気にするな」と返されるだけだった。

小5の時、両親が別居。母が家を出た。そのあたりから父の様子がおかしくなり、「お母さんと陰で何か言ってるだろ」と責められた。姉からも「お前のせいで(両親が)別れた」と罵倒された。

「いじめに遭った小学校の経験から」言葉の暴力が一番いけないと、誰よりも知っていたはずなのに。後悔だけが残った。

父と住んでいたが、実際に育ててくれたのは祖母。家の中で過ごす毎日が続いた中、2歳の秋のことだった。反抗期もあり、祖父に「言っているじゃない言葉」をぶつけた。その1カ月後、祖父は他界した。

再びくじけそうになった自分を救ってくれたのは、担任の先生だった。いくら面会を拒否しても、毎日家に来て気に掛けてくれた。「お前がど

祖父の死を機に「自分はつらい過去を理由に現実から逃げていただけ。このままではいけない」。中3になり、学校に行く決心をした。ただ、勉強の遅れを取り戻すのはやはり難しい。1年間の「ずれ」を痛感した。

卒業を間近に控えたある日。高校進学を諦めていた自分に担任が「あお

夢もなかった。でも、友達と一緒に興味があるものを挙げてみたら、いろいろと見えてきた。釣り、動物、自然…。「獣医師、分かった」。

「いじめに遭った小学校の経験から」言葉の暴力が一番いけないと、誰よりも知っていたはずなのに。後悔だけが残った。

この企画への意見を待ちしております。取材をお願いする場合がありますので、連絡先を添えてください。断りなく氏名などを紙面に掲載することはありません。宛先は、〒031-8601(住所不要)デリー東北報道部「あおば学院取材班」へ。ファックスは0178(45)5000、電子メールアドレスは aoba@daily-tohoku.co.jp

…毎週金曜日に掲載